

聖マルチン病院

St MARTIN'S HOSPITAL

No. 12-054-2018作成

新築
病院

発注者	宗教法人 カトリック聖ドミニコ宣教修道女会	カテゴリー				
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	大成建設株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

周囲の風景に調和するランドマークホスピタル



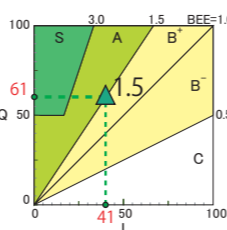
環境に調和した建築

設計主旨

聖マルチン病院はカトリック聖ドミニコ修道女会が運営するケアミックス総合病院である。第二次世界大戦終戦後の1949年に坂出市に開院され、長い間、地元の人々に親しまれてきた。病院理念のひとつに「キリスト教の精神に基づいて、愛と誠実をもって患者の治療、看護介護を行い、医療と地域社会の福祉に寄与する」という、地域における役割を掲げている。院内では、大勢の修道女達がボランティアで患者のお世話をしている。築60年以上になる病院は老朽化し、新耐震基準に合う建築する必要があった。また、新病院では緩和ケア病棟（ホスピス）を新設し、癌終末期の患者の身体と心のケアも行うことも目指している。計画にあたり、病院の地域に対する役割、キリスト教の精神を理解し、それを具現化すべく以下のコンセプトを設定した。

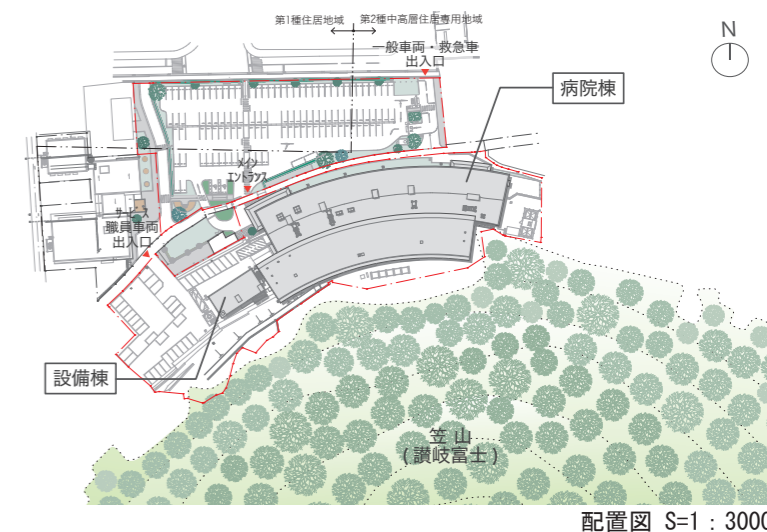
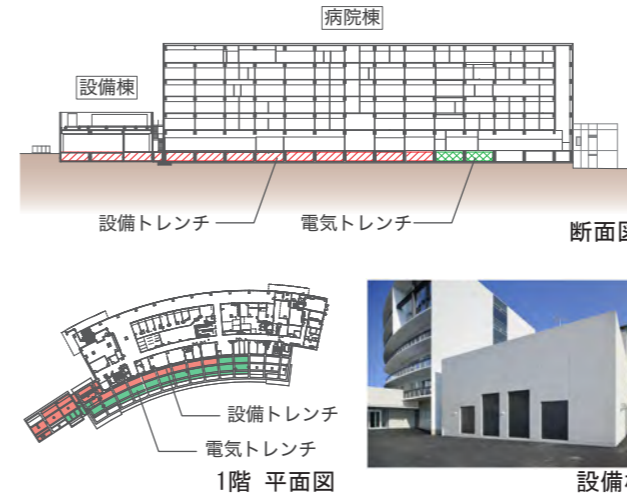
1. 周囲の美しい環境と調和する建築
2. キリスト教の精神が建築に織り込まれた優しさに包まれる空間づくり
3. 病院の礎を新しい姿で継承する

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 20 %	Aランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 10 %	BEE=1.5
敷地面積	LCCO ₂ 削減 16 %	2014年度版 自己評価
延床面積		
構造		
階数		



周囲の美しい環境と調和する建築

計画地の周辺は「讃岐富士」と呼ばれる山並みが美しい風景を創り出している。外観には建築以外の要素を排除するために、設備機器は建物背後と設備・電気トレンチを通じて設備棟に集約した。これにより、山並みに添った弓状の造形を際立たせ、周囲の環境に調和する建築とした。



外来スリット窓

キリスト教の精神が建築に織り込まれた優しさに包まれる空間づくり。普段外に出ることが少ない患者やスタッフのために、周りの豊かな風景を楽しめる場所を院内のいたる所に創った。病棟廊下からは数々の山が、最上階からは瀬戸内海と瀬戸大橋を望み、病室やダイルームからは移り行く四季の木々を楽しめる。外来空間のストライプ状のスリット窓やトップライトからの間接光など、キリスト教の精神を感じられるように自然光の制御を行っている。



1階 待合

2階 リハビリルーム

病院の礎を新しい姿で継承する

旧病院には修道女会のシンボルである十字架が看板サインとして取り付けられており、病院のシンボルであった。新病院では、十字架をファサードとインテリアにデザイン要素として取り込んでいる。外装の十字架は、静寂な夜景にひときわ暖かく照らし出される。市街から一段上がった位置にあるので、街中からその姿を見ることができる。この建築は、キリスト教の精神に基づく清く愛にあふれる修道女会と病院の姿を新たな表現で継承し、街のランドマークとして生まれ変わった。



美しくライトアップされる十字架

設計担当者

統括：松村 正人 建築：井内 雅子 構造：中川路 勇、武谷 政國 設備／龍 英夫、松村 保彦、福田 大空

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP対応として、受変電設備・発電機・液酸タンク・受水槽は遡上する津波の影響を受けない計画)
- Q2. 3. 対応性・更新性 (設備バルコニー・病室の個別空調の採用)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置や形態のまちなみとの調和)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明・センサー制御の採用)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器の採用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (駐車場・駐輪場の確保)